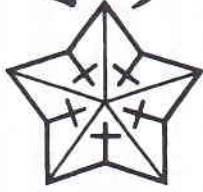


大井第一小学校

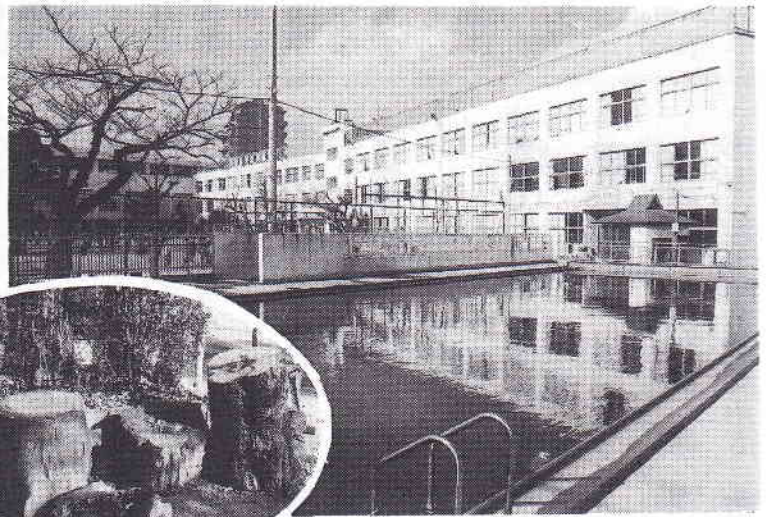


同窓会会報 6号

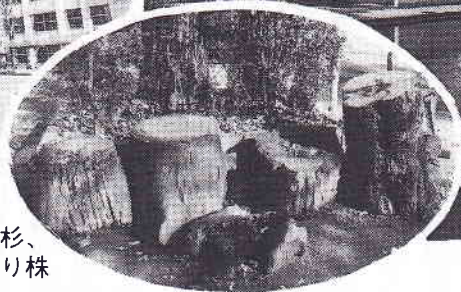
大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2004年3月



タブの木



プール



ヒマラヤ杉、ヒマラヤ杉、
桐、桜の切り株

「樹木」

校長 櫻橋 賢次

教育関係の新聞社から、学校のシンボルとなっている樹木についてなにか書いて欲しいという依頼があり、いろいろな人に尋ねてみました。現在、学校のシンボルとなっているのは校庭にあるタブノキです。大人一人では抱えきれないほど幹周りが太く、葉をいっぱい茂らせ、堂々としています。子ども達は、夏の暑い盛りこの木の下で涼を取ったり、根元が遊びのよい陣地ともなったりするなど親しまれています。このタブノキの前は、大きなキリの木が校庭のトラックの中であり、とても親しまれていたそうです。また、大きなヒマラヤスギ、カヤノキが本校のシンボルとしてあった時代もあると聞きました。きつとそれ以前にも、皆さんにとって忘れられない樹木があるのではないのでしょうか。なにしろ、歴史の長い学校ですから……。

学校の敷地にある樹木を数えてみたら、百一種類、全部で二百六本ありました。中には、オガタマノキやイヌマキなど学校の樹木としては珍しいものもあります。また、卒業生が記念樹として植えていったものもあります。戦争中、建物疎開により

近隣の方々がわざわざ本校に自分の家にある庭木を移植されたという話も伺いました。樹木以外でも、ヒガンバナ、サフランなど四季折々の草花が子ども達の目を楽しませてくれています。

樹木のように長い年輪を数える本校は、平成十七年度に百三十周年を迎えます。本年はその前年にあたり準備を進めてまいります。本校が今こうしてあるのも、卒業生や歴代の教職員の方々、そしてこの大一小を支え続けてくださった地域の方々のおかげです。改めて先人のご努力に感謝の気持ちを持ち、さらに本校が発展していく契機となるような周年、節目にしたいと考えています。皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

「毎朝駅の方を見ていたんです」

旧職員 S 30 / 37 迫田 文雄

昭和三〇年九月初め、私は炎暑の鹿児島から猛暑の東京に上京し、大井第一小学校へ赴任しました。

九月三日は、講堂その他を会場とする、夏休み作品展の飾りつけが行われました。新任ホヤホヤの教師は脚立に上り、絵・工作・地図・採集品などを掲示しました。首筋を、汗が頻りに滴りました。

昨日、私の担任クラスになった五年生の子ども達が、いそいそと手伝ってくれました。子ども達はなぜか楽しそうな言動で、脚立の根元を抑えたり、作品を運んでいました。

私も、何となく高いところで、心楽しくなっていました。そのとき声を忍ばせているのに、はつきりとした声が聞こえました。「この先生は色が黒いな」数日前まで日本列島の南の涯で働いていた教師の生態を子ども達は鋭く拘え、軽い異和感を覚えていたのでしょうか。私はしばし脚立の上で、ことばはありません。皮膚の黒さはさておき、子ども達の生活感覚と、一日でも早く同調できる教師にならなければならぬと思います。

この学校に赴任して三ヶ月ほど経ったころ、私の妹が、鹿児島で急死しました。

五日ほどの日にちを戴き、鹿児島に帰りました。しかし、田舎のくさぐさのことで、帰京が二日ほど遅れました。

再び東京で子ども達の机の前に立ったのは土曜日。

四時限目が終ると、二、三名の子が私をとり巻きました。

「土曜日でおひるまでです。でも、三〇分ぐらいの時間を私たちにいただけませんか。」

すばやく机は後方へ引かれ、椅子だけがピツタリ並べられました。

黒板に模造紙が貼られました。右端に、「迫田先生をなぐさめる会」と書かれています。

代表が一揖して神妙な声で話し始めました。「私たちがいい子でないので、もう、先生は東京に帰っていらっしやらないのかと思いましたが、私たちは、毎朝、学校の門の前から駅の方を見ていたんです。」

私は衝撃に身がしびれましたと言うより、痛打された思いでした。涙を泳がせるのがせい一ぱいでした。こんなすばらしい子ども達に教師として値しない男だったのでは。よーしという気持が私の胸に広がりました。子ども達が、私に東京の教師としての土根性を叩きこんでくれたのです。

(※昨年、漢字検定一級合格、全国十位、百点を取るまで挑戦されるそうです。)

『懐しい先生方のお便り』

「教師魂」

旧職員 S 24 / 37 原 美代子

私は、昭和二十年三月に、戦前の

東京女子師範学校を卒業して、教師になりました。

はじめての勤務校は、港区の虎ノ門近くの一学年一学級という小規模校でしたので、未熟そのものの私は、先輩教師の指導を受けることもなく、三年過ぎてしまいました。

結婚を期に、大井第一小へ転任し、大規模校に驚いたものです。学級名が、松竹梅月雪ということ程なく、花星まで出来てしまいました。

学年会といって、毎週金曜日の放課後に、学年主任を中心に、次週の指導計画・方法を綿密に打ち合わせるのです。未熟な私は、一つ一つ目を開かせてもらいました。

教頭の梶原邦光先生には、授業を観てもらい、正しい日本語を使うこと、漢字指導は、必ず筆順辞書で確かめてから教えることを指導されました。私の教師魂は、大井第一小に勤務したことで培われたと、感謝しています。

「誇」

旧職員 S 28 / 38 松本幸三郎

昭和二十八年三月、大井第一小学校の門を入ろうとした私は思わず足を止め左右の四つ目垣の下を見た。塵一つなく掃き清められ然も自然。

凄い学校へ来たものだなと思った。児童の服装態度も立派、この学校で勤めるのかと身も心も肅然となった。それから十年この学校のお世話になった。大井第一の最大の誇、それはご父兄の学校に対する理解と協力、児童の素直さ真剣さ先生方の優秀なことである。

「だるま会」に寄せて

旧職員 S 28 / 38 木村 孝一

教師になり、初めて卒業させた子供たちのクラス会名が「だるま会」です。年一回のだるま会と隔年毎の一泊旅行を、ここ二十数年間続けております。

子供たちは、それぞれに社会的な地位や立場で活躍しているにもかかわらず、だるま会の会合では童心に戻り、アルバムを開き語り合いや、情報交換の様子を見るにつけ、同級生の絆の硬さが伺われます。

今は他のクラスも参加し「だるま会」として、例年開催しております。※昭和33年、卒業生達

私は、元気にて日々「俳句」や「切り絵」など楽しみながら暮らしております。

私の近隣にも大井第一の卒業生がおりますので時々同窓会の真似事などしております。

同窓会のますますの発展をお祈り
申し上げます。

「思い出し感謝」

旧職員 S 29 37 入江美千枝

このたび、なつかしい大井第一小
学校を思い出させて頂くことができ
ましてありがとうございます。森写
真店の前の通りが、またなつかし
うございます。角のところに祭られ
たお地藏様も、この年ならばこそ
今も思い出されます。ありがとうございます。皆様
頭の下がる思いがいたします。皆様
もお変わりなく大井第一小学校を
守り下さいますこと、感謝いたして
おります。おかげさまで私も丈夫
で、若くはありませんが若さを忘れ
ずががんばっております。この度、
東京から一緒に来てくれました姑を
見送り、一月には上京し納骨する
予定等々ありますので心身共に落ち
つかない毎日でございます。

「大井第一の思い出」

旧職員 S 29 42 古賀 定愛

一九五四年十月、九州（福岡）の
片田舎より上京。その後、十二年半

もの長い教職生活。若かりし頃の想
い出多き歳月であった。

振り返ると、児童達の人間性の教
育を基本にして、今日最も強く叫ば
れている学力に心血を注いだ。徳
育・体育は勿論のこと、知育に傾注
した。あの頃の知育は、単なる知識
の注入や記憶と混同、ともすれば詰
込み教育に陥る傾向があった。試験
でいい点数を取ることばかりを目的
にしてこせこせと勉強する点取り虫
にならぬよう、日々の授業を大切に
豊かな創造力を身につける実践に努
めた。

児童達の思いつきやものの見方・
考え方を大切に、想像から創造へ。
特に子供なりの奇抜な発想（発明・
発見）を褒め、ものを造るだけに止
まらず、児童自らが十分に理解し納
得して、ものや知識を創り出す喜び
を共に味わった。今や大井に住み第
二の故郷である。

「大井第一小の思い出」

旧職員 S 30 36 高橋 保

当時、第十四代の葛生校長が履歴
書の束を見せ「こんなに本校を希望
する先生の中から君を選んで採用す
るのだから、がんばってもらわなく
ちゃ」と面接の初対面でハツパをか
けられ、度肝を抜かれた事が今でも

忘れられない思い出です。児童をは
じめ父母、同窓会、教職員等、さす
が評判通りすばらしい学校でした。
大井第一小に奉職させて頂いた事
は、私の誇りでもありました。

「運動会当日朝の大ハプニング」

旧職員 S 32 44 北川 菅雄

私は何時も運動会の担当は放送係
だった。

ある秋の運動会の朝、前日まで準
備完了し講堂に格納しておいた放送
機材が哀れ、全てがメチャクチャに
破壊されていた。目の前が真白、す
ぐに警察に通報。聞けば翌月曜日
に、ある政党の演説会が予定されて
いて、その反対派の妨害行為だろう
とか。開会式までには修理不能。私
は家に自作のアンプ等が眠っている
のを思い出し、急ぎ自転車のペダル
を踏んだ。

「校歌が希望と力を 与えてくれる」

旧職員 S 33 39 石渡 欣久

今年の正月、わが家の新年の集ま
りで五十五歳になる長男が、卒業し
た小学校の校歌を歌った。私は、創
立百二十周年記念にいただいた大井
第一小の校歌のテープを出した。卒

業生の北條誠さんが作詞、服部正さ
んの作曲で校歌のコンクールで入賞
した名曲である。

「希望の丘に陽がのぼる・・・、
東京湾の波の音・・・、遠くにあ
おぐ富士の山・・・、希望の歌が
わきおこる・・・」。

作者の思いと、七十年前の私のふ
るさと・母校への思いが重なる。思
い出は美しい。

私は、昭和三十三年に大井第一小
に赴任し三十九年まで六年間勤務し
た。当時、大井第一小は山王小と並
んでの進学校で越境児童も多く、
松・竹・梅・月・雪・花・星の一学
年七クラスの大規模だった。

人それぞれの歩む道は異っても、
共に遊び学んだふるさと・母校の友
を大切にしたい。

「三位一体」

旧職員 S 33 45 守田瑠璃子

明るく素直な子供達。教育熱心で
協力的な父母。卓越した指導力をも
つ教師陣と互いに三位一体。昭和三
十年代は大井第一の黄金時代であつ
た。二千人近い児童数、秒刻みの運
動会、連日七時間土曜日もない高学
年の補習授業と時間的なゆとりはな
かったが、子供達の伸びるのが目に
見え、心のゆとりと充実感に溢れる

毎日であったことがなつかしい。

旧職員 S 37 〳 44 山崎 正子

大井第一には、ユニークで学究肌の先生がお揃いだった。職員室で執務中の頭上を、教育論が往来する。これが座り乍らに勉強になった。二年生担任の折り、私の学級の国語研究授業に、お茶の水大から指導講師の先生が態度と内容の豊かさを、授業後の講評で指摘され大変ほめて頂いた。大井第一の先生方、児童の人的環境が、若い私を育ててくださったと今なお感謝である。

旧職員 S 37 〳 52 阿部 和美

世の中が、極めて著しく変動した時代、生まれそして育つ。敗戦、国敗れて山河あり。

街は焼土化し、人はさまよう。時の流れは静かにゆっくりと流れる。新しい国造りの復興の時代、それがかたまり始めたころ教職につく。若い頃、夢をみる。「芸術家になりたいたい。」

平和憲法下、民主教育化が急速に進む。

人権尊重、個性尊重、創造性の育成などなど。ある芸術家の友は「芸術、くそくらえ。」と云ったことがあるが、それでも彼は芸術を続けているが、常に美を求め心。美を

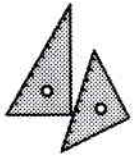
楽しみ、美を創りだす働き。心の安らぎと、生きる喜びがある。三十九年間の教務を終えてから十四年が経った。国を思い、故郷を愛し家族を慈しみつつ、祖国のために散華された英霊の「みこころ」に想いを馳せ、「人とは何か」「生きるということ」を考えてみる年にしたいものです。山桜今日も咲いている、水が流れるように。

「習つより慣れよ」

旧職員 S 45 〳 51 野村 福雄

百周年記念へ向けての旧校舍取り壊し、鉄筋校舎建築という慌ただしい時期の赴任。特に三階に体育館を建設する新構想を担当。いろいろ勉強させて戴きました。その後芳水小、四日野小教頭として転任。その都度体育館建築に携わりました。よく野村建設(株)と云われました。当時お力添え頂いた同窓会会長岡田一郎先生と今もお付き合いのあることを嬉しく思います。

「同窓会報」は他校に見られない素晴らしい文化活動です。文化とは伝承されなければなりません。役員の皆様の努力に敬意を表します。



「大井第一小の思い出」

旧職員 S 45 〳 55 齋藤 治

私が大井第一小に在籍していたのは、昭和45年から55年3月までの10年間の長きにわたります。その間、良き先輩、同僚に恵まれ私の教師としての基礎となった学校です。

当時の学校は、木造校舎で迷路のように入り組んでおりました。鉄筋校舎への移行の時期だったので、いつも工事中で、体育の授業では、リヤカーに用具を積んで浜川公園まで行ったこともありました。卒業式を今のきゅりあんの場所にあった区の公会堂で行った事もありました。式が終わわり、列をつくって学校まで帰ってお祝いの風船を飛ばしました。また、創立100周年に当たり、記念誌や、展示資料作りに夜遅くまで取り組んだこともなつかしい思い出です。個人的には、東京都体育研究会の発表会が本校であり、発表させてもらったり、都社会科研究員に出して頂いたこと等、私の大きなステップとなりました。このような大一小は、私にとっては忘れられない学校なのです。



「校歌の思い出」

旧職員 S 45 〳 56 上野 照男

創立百周年記念誌委員長の時、学校変遷の資料収集をしていました。金庫の片隅に北條誠氏(昭和四年卒)作詩の自筆の校歌を発見しました。作曲は服部正氏。七十五周年に校歌制定ですから二十五年間眠っていたのかもしれない。注として「周年行事のみこの歌詞を五番として歌うこと」とありました。

百周年記念式典では校歌を五番まで、声高らかに歌った感銘深い思い出があります。

「大きな 桐の木」

旧職員 S 45 〳 56 森下 釉子

『もう百才かと思上げてみるとお空にのびのび大きな桐の木 僕達私達に輝く歴史や思い出を話してくれる。』百周年祝歌の二番に歌われた大きな桐の木、当時六年生だった田口雅代さんの作品です。子供らしい素直な表現に、これだ!!と決定。一番と二番をつなぐため私が三番をつくりコーダーとしてまとめることになりました。『ああ百年の歴史の上に、幾千万の卒業生』としたところ、小林喜人先生から『幾千万』は多すぎると、しかし幾千人では淋しい。

どうしても方がほしい。考えた末、二部合唱のかけ合いにして幾千(A)幾千(S)万の(A)万の(S)として思いを上げた。

百周年の祝歌に歌われたこの大きな桐の木、大井一小のシンボルとして運動会のトラックの中に居すわっていた桐の木、校舎改築の折片腕をなくして段々バランスを失い失速した桐の木。しかし今でも校庭一面紫のジュートランをしきつめた光景が浮かんでくる。

(※先生から百周年祝歌の楽譜のコピーを頂きました。)

「校歌の彫刻」

旧職員 S 52 ～ 61 野々山秋子

第百三回、百六回の卒業生の記念作品を何にするか担任が協議の上、校歌を彫刻して残すことに決めた。安楽先生に歌詞を書いて頂き、種元先生に彫り方をご指導頂き、三八四人の児童と担任が数枚ずつ受け持ち、中には指に傷をしながらも最後まで頑張り完成させた。今、正面玄関の壁にかけてある作品を見ると、当時の児童の真剣な顔が思い出されます。

「在職時代のあれこれ」

旧職員 S 55 ～ H 4 松元 久子

昭和の終りから平成にかけて、輝く子供達と大一小で過ごせた事を大変嬉しく思います。赴任の五十五年から、五年の林間は日光がたびし学園へ、広い敷地内では猿の親子に出会ったり、トンボは指先に、池の鯉や蛙と遊び、はんごう炊飯、キャンプファイヤー、テントでの一夜等、初めての経験で自然を満喫しました。今後も卒業生や在校生が、益々健康で明るく活躍されるよう一教師として祈っています。

「あめはじいじいなのかな」

旧職員 S 61 ～ H 6 佐伯 治美
(旧姓 鈴木)

数々の思い出、私の失敗から忘れられないエピソード。作品展の表彰の場に出席したいと思っていた親に連絡がうまく回らず、あやまりの電話を入れることになりました。何と切り出そうか不安になっていたところ、第一声「出席できないのは残念でしたが、ジミーちゃんをいじめないでと娘に言われました」とやさしい声。救われました、教わりました。会報楽しく読ませていただいています。今は、菊の花はならんでいる

ののでしょうか。

「大井第一小学校の

発展を祈ります」

旧職員 H 1 ～ 12 立石 敬三

私は平成元年の四月から平成十二年の三月までお世話になりました。現在は御殿山小に勤めています。四、五、六年、T T と様々な立場で勤めましたが、どの時も楽しかったことが思い出されます。とりわけ平成七年十一月の百二十周年行事は忘れられない思い出です。私の教師としての故郷である大井第一小学校の発展を記念せずにはいられません。

「忘れがたい大井第一小学校」

23代校長 H 2 ～ 8 栗田 敦子

大切な宝物のような児童と教職員を次の校長に引き継いで八年が過ぎようとしている。百二十周年式典を多くの方のご好意とご協力で盛大に挙行できたことを忘れることはできない。同窓会名簿は、この時期有志の方が集まって卒業生名簿や個人的な消息を持ちよって丹念に作り上げたものである。そうした努力ができた卒業生からなる同窓会である。

「私の大井第一小」

旧職員 H 3 ～ 10 青山 一男

私は、平成三年の四月から七年間、大井第一小にお世話になりました。その頃は、クラス数が二十四で、九百人近い児童数でした。

担任は、主に高学年と低学年を担当しました。一学年四クラスだったので、行事の時は、四人で分担できてとても楽だった記憶があります。たくさんの子ども達、そして、五十人をこえる教職員、そんな大井第一小でした。

「大井町駅前にて思うこと」

旧職員 H 3 ～ 11 片寄 玲子

耳鼻科の古屋英彦先生には、かれこれ十年以上お世話になっていきます。今でも時間を見つけては通っているのです。大井第一小学校と離れてだいぶ経ちますが、少しも離れた気がしません。

大井町駅周辺は、出かけるたびに様子を变えていて目を見張ります。JRから広場に出ようとしてエスカレーターを下りたら、りんかい線の改札に出てしまったということも一度ならずあります。またそのエスカレーターの高いこと。すぐまた上るばつの悪さ……。

町はほとんど便利に変わっていき
ます。それでも大井第一小学校には
変わってほしくないな、と思いま
す。きっと今でも元気な子ども達が
広い校庭を走り回っているのだし
う。

大井第一での初めての卒業生たち
が、今年度で二十歳になります。彼
ら各々にびったり合ったスポーツラ
イトがあたりますように。

「貴重な四年間でした」

旧職員 H 8 12 野崎美由紀
(旧姓 杉山)

皆様お元気ですか。私は大いで四
年間お世話になりました。教員とし
ての始まりでもありました。子ども
たちと過ごす日々が本当に楽しかつ
たです。子どもたちの笑顔、先生方
のアドバイス、保護者の皆様の温か
い言葉に支えられ貴重な四年間でし
た。皆様本当にありがとうございました。
現在私は大田区で勤務してい
ますが、只今育休中です。長男誕
生！

「自然と共に」

旧職員 H 6 15 飯島 朋子

「先生、お元気ですか。今、大一小
の自然は春に向けて準備をしていま

す。」お正月に届いた教え子からの
年賀状の添え書きです。

生活科や理科の時間に、木々の芽
吹きを見、おたまじゃくしやアゲハ
の幼虫を育て、花々を愛で、木の実
を食してこども達と共に自然に親し
んだ日々を思い出します。

今年もまた、桜吹雪と遊び、ゆす
らうめの実に歓声をあげる子等がた
くさんいることでしょう。

『同窓生の父兄の方の思い出』

「懐しの大井第一」

兼村 美子 (92才)

初めて学校を訪れたのは戦後七年
位のこと、まだまだ世の中全てが
整った頃ではありませんでした。
三人の子供がお世話になったのは
想い返せばそんな半世紀も前の事
です。

当時、校庭の中央には戦火の中生
き残った一本の大きなヒマラヤ杉が
凜として空にそびえ立っていた事や
長男の時は教室がし字型で児童数も
少なく一クラス40名位で三クラスで
した。長女の時は戦後のベビーブー
ムで一気に七クラスに増えそれでも
教室に入りきれない程でした。先生
方のご苦勞は、さぞかし大変な事

だったと思います。そして次女、そ
んな中、主人が急死し、父の居ない
事を感じさせまいと私なりに学校へ
顔を出す日が多くなりました。当時
の若いT先生や新婚間もないS先生
等は「私の助手です」と職員室で言
われる程、子供達の面倒をお手伝い
しておりました。子供達が卒業する
迄ずいぶん役員をし、私もよくぞ学
校へ通い続けたものです。

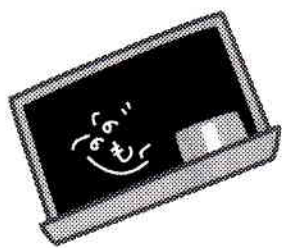
現代と違い専業主婦の多かった事
もあって先生と父兄もコミュニケー
ションがよくとれていた様に思いま
す。

先生に対しては父兄も生徒も畏敬
の念をもって特別乱れる事の無い教
育現場でした。

振り返ってみると誰もが真剣に教
育に立ち向かっていた良き時代だっ
たんだろうと思います。

今でも、あの校庭には大樹が茂り
昔と変わらず子供達を見守っていま
す。

懐しい校歌と共に当時を思い起し
ながら筆をとらせて頂きました。



同期会クラス会だより

昭和14年卒同期会

(平成15年6月29日) 於・大井町駅前「薔」

昭和14年卒 津田 照通

今年私達は喜寿を迎える年なので
「同喜会」として開催しました。

札幌から阿部(伊佐)久美子さん、
芦屋から笠間(本多)順子さんをは
じめ、静岡・熊谷・八王子に在住の
方々、また、戸越台の特別養護老人
ホームから車椅子での出席等、32名
が初夏の数時間を楽しく過しまし
た。加藤寛君のように多忙な為会費
だけの参加もありました。今後毎年
開催して欲しいと云う声も多くあり
ましたが、次は3年後の「傘寿」の
年に再会を約束し名残を惜しみつつ
散会しました。

同期会開催報告

昭和15年卒 代田 益穂

昭和15年卒業の私達は、5月17日
に同期会を大森東急インで開催しま
した。参加者は松組6名、竹組6名、
月組7名、梅組9名、雪組9名の合
計37名でした。

私達の集まりは、同期会とクラス
会をかねてやろうと考えて、12...00

13..00は、各クラスミックスでビールを飲みながらお食事タイム、13..00~14..30はデザートタイムでクラス別のテーブルでわいわいがやがや、1年ぶりの再会を楽しんでいます。

昨年から松組の青木君の提案で、昔の第一小学校周辺を思い出そうと、大井町~大森周辺の道路・商店・火の見櫓・どこのパンがおいしかった等思い出すまま、大きな紙に書き込み「思い出マップ」を作りかけています。完成したら同窓会事務局にも差し上げるつもりです。

来年(平成16年)は5月16日(日)東急インで開催する予定です。

クラス会開催報告

昭和16年卒 若狭 泰子 担任だった黒田今子先生が、十二月のお誕生日で白寿を迎えられるので、クラス一同でお祝いを差上げたという話になりました。

毎年開催して居りました同期会も、今年は中止となりましたので梅組だけでクラス会を開き、全員三十一名に声をかけました。

クラス会(十月三日開催)は10名の出席でしたが、和やかな会を持つことが出来ました。欠席の方々もお祝い金を送ってくださり24名分で三万三千円が集まり、先生にカシミヤ

の毛布をお送りする事が出来ました。とても喜んでくださり、ご長男からお礼のお葉書きをいただきました。

これからも益々お元気で、長生きしていただきたいと思えます。

26年3月卒同期会開催さる

昭和26年卒 桜井 忠敏

平成15年11月1日大森のホテルモントレ山王にて20名が集い開催、一年ぶりの元氣な再会を祝しシャンパンで乾杯、互いに久闊を叙した(幹事は平出武・堺俊・真田稔子・西村百合子の四氏)。私共は昭和20年4月に入學、26年3月に卒業。この間空襲のため校舎全焼・浜川小学校の仮教室・六三制学校制度への移行・

新校舎完成教室移転・校歌制定といった激動があり、疎開等転入出が多かったものの卒業時の120名の仲間が担任の武井春夫・松本京子先生のもとで会を重ねて来た。

極く少数の親しい友人の集まりが現在の同期会形態になったのは、母校の100周年記念行事で武井先生が校長に就かれていらした折(S50)の集まりがきっかけである。10名も満たない仲間が10年20年後に向けもつと大勢の集まりを持つと誓いあい、名簿整備から取組んだ。その甲斐あって現在では90名の消息が確認

済(内、物故者11名)。最多参加者は今は亡き武井・松本両先生をお招き出来た高輪パシフィックホテルでの40名である(S62)。

嬉しいもので会を重ねる度に、卒業後初めて会う仲間が現われる。実は今回幹事の一人(平出氏)も同窓会会報No.4号で消息が判り前回より参加することになった。殆どが現役を退いた中、調停委員(石川富邇子氏)、介護士教育指導(松崎啓子氏)、私大の事務局長(栗原良平氏)他、様々な分野で社会貢献している者が少なからず居ることは、仲間として大いに元氣づけられる。来年の再会を約し二次会・三次会と流れていった。

松組恒例の忘年会

昭和35年卒 中村 良子

今年もまことにまつた忘年会シーズンの到来。三十五年卒の松組の忘年会は、新橋駅に集合。おしゃれなスポット、汐留シティセンター、四十二階「えん」で、外のすばらしい景色に目もくれず盛大にもりあがりま

した。集まった十人は、自分の年も、普段の生活もわすれ、二次会のカラオケでは、なつかしい歌を歌いまくりました。又の再会を約束して、夢

の楽しい数時間に終わりをづけました。

「遠くで思う大井第一小学校」

昭和18年卒 岡田 清

幼き小学校の日々の思いでは、まことにか細い。母親に手をひかれ校門をくぐった時は、「大井第一尋常高等小学校」で、卒業は「国民学校」と変わった。2年生からは男女別の組編成に別れた。男女席を同じくする事のなかった時代でした。どこか家庭でも子供はたくさんいたので、一学年五組編成(松・竹・月・梅・雪)で全校で生徒は120人はいたと思う。

「三尺下がつて師の影を踏まず」の教への時代でした。5~6年担任の「森寿長先生」などは多分19歳ぐらいの若さでしたがキリッとした厳しいお顔がとても印象的でした。森先生のみならず一般的に先生方はこわくきびしく威厳がありました。廊下を駆け回ったとか宿題を忘れたとかで、すぐに罰としてよく立たされたものでした。

そんな中であって、学校では教育方針として、生徒の正しい良い姿勢を特にご指導されていたのではないか。しばしば先生の大きな両の手で私の肩をぎゅっとなつかんで正された

暖かみは忘れることはできません。思い出せば、先生も生徒も皆すがすがしく、立ち居振る舞いが、とても良かったように思うのです。

また、春になると窓から桜の花びらが、見開きの読本や床に舞い散る、木造の古びた校舎の美しい思いでは忘れることはできません。

今回偶然、ゴルフ仲間である大学の後輩T氏（ハンデ12）が、小学校も後輩と言う奇遇が重なり、日ごろ勝負の恨みつらみを晴らすべく小生（ハンデ8）に投稿依頼となりました。本校でなんの賞状もいまだかず卒業しましたが、よい姿勢と健康をいただけたことをとても誇りに思っております。

「大好きなピアノと桜」

平成2年卒 原田 吉子

昭和62年、福岡から転校してきた私は、大井第一小学校の満開の桜に迎えられた。それから3年間、自宅から校舎の南口まで、校庭の桜を毎日見上げながら登下校をすることに。1年を通し、桜の木々は季節に応じた美しさを教えてくれた。春の美しさにはやはり胸が躍ったが、5月6月の青葉の美しさ、落葉する11月も好きだった。

第一小時代は、特に頑張って勉強

をした記憶は無く、伸び伸び遊んだ。音楽の時間が大好きで、よく伴奏でピアノを弾かせてもらった。お世話になった音楽の大貫先生から、学芸会や合唱会用の楽譜を貰い、よく練習した。なかでも校歌の伴奏をさせてもらう機会は多く、全児童の前で始業式や終業式に体育館のピアノを弾かせてもらえるのがとにかく嬉しかったのを覚えている。

私達が卒業した平成2年は、例年に比べ桜の開花が早く、3月の卒業式の日にはすでに満開に近かった。咲き誇る桜の花のもと、大井第一小学校で最後となるピアノ伴奏をした。曲は、卒業生が皆で歌う「巣立ちの歌」である。歌いながら涙ぐむ児童もいたが、私は決してとちるまい、と真剣。弾き終わって初めて、いつものすがすがしさに加えて若干の寂しさを感じたのを覚えている。

第一小のピアノはそれが最後になったが、卒業してからも暫くは大井6丁目に住た為、校庭の桜は常に身近な存在ではあった。しかしその後、大学の3年4年をアメリカで過ごし、初めて春に桜が見られないことがあった。2年ぶりに戻り、最初に見た桜は実家近くの大井第一小の桜だ。あの時ほどあの桜を美しいと思ったことはない。すぐさま感動を伝えたくてアメリカの友人に写真を

送った。友人からはさっそく「It's so pretty」と返事が届き、とても誇らしく思った。

最近はずっかりご無沙汰しているが、また春になったら、あの校庭の桜を見に行きたい。よく伴奏したあの校歌も聞こえてきそうだ。

「振りかえってみると」

平成2年卒 緑川 毅

私は大井第一小学校へ4年生の頃に転校してきました。転校してきた時は「なんだ？この学校は、」というのが第一印象でした。クラス名は松・竹・梅で紺の帽子を被っていて、まるで幼稚園みたいだなと。今考えれば、特色があり、話のタネとしても使えるので、悪いものではなかったと思いますが、当時は、非常に恥ずかしかったという記憶があります。

卒業してから、小学生時代のことを考えることは殆どなかったのですが、今振り返ってみると、たった2年ちよつとの間でたくさん経験をして、思い出を作ったんだなと感じます。いつもドッジボールをしています。校庭、当番で飼育していた動物たち、園芸クラブの生徒たちが野菜を一生懸命育てていた畑、勉強をしていたのか遊び場だったのか分からな

い教室、一年生から六年生まで全員で行った全校遠足、応援団長をやった運動会、なぜか落ち着くことができた放送室、など次から次へと浮かんできます。中でも私の心に強烈に印象に残っているのは個性豊かな学年の先生方です。怒るととても怖く、時にはきついお仕置きをしていた竹組の佐藤先生、渋い表情でいつも冷静で仁丹の香りがしていた梅組の塚越先生、声が大きく、目も大きい私の担任であった上野先生。3人の先生方は、それぞれに特色があり、好きなどころも嫌いなところもたくさんありました。しかし共通していたことは、自クラスの生徒と他クラスの生徒を分け隔てなく、いつも温かく、時には厳しく見守っていたということです。自分のクラスの生徒を見るのは教師として当然かもしれませんが、他のクラスの生徒、いわば自分の担当外の生徒の行動も見ていたというのは、本当に大変なことであったと思います。

将来、私に子供が出来たときには、あの先生方がいるような学校に通わせたいと思うと同時に、学級崩壊が叫ばれる昨今の先生方への負担が少しでも減るように、地域の子供たちに目を向けていきたいと思えます。

『振替用紙の通信欄より』

● 会報5号はじめて受けとり、なつかしく思い読ませて頂きその後、竹組の有志とは何度か集いました。(S 27卒 竹組 岩井 博子)

● 4年生の頃、算数で習熟度別クラスへの授業があり、非常に活気があったと思います。今、4年生の息子を見ていると何とどのんびりしていることか。時代の違いか学校の格差かと思ってしまう。(S 51卒 月組 納谷 陽子)

● 実家(大井5丁目)に母が存命なので時々大井へ行きますが第一小を見る機会がなく、近い所なので昔あったヒマラヤ杉を見に行きたいと思っています。(S 28卒 雪組 曾根田 久江)

(※残念ながらヒマラヤ杉は枯れてしまいました。) (編集委員)

● 家内を亡くしひとり暮らしも3年目ですが元気です。毎月、光福寺に行っていますが駅前の変化には驚きです。(S 16卒 竹組 相原 紀之)

● 卒業50年の記念樹として17年組一同で、正門右手に紅梅を植えました。毎年思い出していました。会報5号で教頭先生が触れて下さりとても嬉しく存じました。鮮やかな小花に逢いに行きたいです。(S 17卒 雪組 橋本 貞子)

● 神崎先生逝かれたのです。武井

先生の大きな声と白いシャツ。思い出します。ご冥福を。S 27年の卒業写真セピア色になりましたがなつかしく見えています。(S 27卒 竹組 青木 利子)

● 先号土肥氏の「思い出」を拝読。S 23年の卒業式を思い出す。食料危機が叫ばれていた当時、赤飯は大変なご馳走で永い間、食べていなかった。55年の昔の事を思い出させてくれた彼に礼を言いたい。(S 23卒 松組 恩田 義之)

● 土井義尚君の「思い出すこと」大変懐かしく拝読しました。(S 23卒 梅組 鈴木 守)

● 横田めぐみさんが第一小に在籍されていたとはオドロキでした。このニュースはいつも真剣に見ていました。ますます気になる存在になりました。わずかですが千円、カンパしたいです。同窓会から渡して下さいませ。(S 36卒 月組 榎本 英子)

(※「救う会」に送金致しました。) ● 校門を入って左手にアンゴラ兎や七面鳥がいて、おとなしい犬と仲よしの「リル」と言う名の猿の事など思い出します。(S 32卒 松組 古川 瑛子)

● 現在東京にいますので何かお役に立つ事があれば何でもします。(S 51卒 梅組 佐竹 英人)

● 横田めぐみさんが鹿島神社の近く

に住んでいたとは。時代は違っても私の家の近くでした。改めてお気の毒と思います。(S 24卒 竹組 杉山 元)

第5回通常総会報告

日時 平成15年4月26日(土)午後2時
会場 大井第一小学校

- 1、開会の辞 佐藤 武
- 1、会長挨拶 津田 照通
- 1、報告
- (1)会務報告 理事会7回 会報委員 会5回 財務委員会6回
- (2)事業報告 会報の発行 第4号・第5号 懇談会15年1月30日
- 1、議長選出(会則第16条) 津田 照通
- 1、議事
- 第1号議案 収支決算承認の件

説明 宮内 利雄
監事 小林 昌信

- 第2号議案 事業計画の件 説明 森 秀雄
- ①母校に対する各種の援助または協力
- ②同窓会名簿の作成・配布・管理
- ③講演会・懇親会・交歓会の開催
- ④役員及び在校生に対する表彰
- ⑤その他、本会の目的達成のための必要な事項

第3号議案 役員選任の承認の件
(会則第12条) 説明 森 秀雄

会長 津田照通(S 14卒)

(※同じようなお便りをS 42卒松組島村(旧姓中根)成子さんからいただきました。)

副会長 森 秀雄(S 34卒・松本徳太郎(S 35卒)・杉内先子(S 41卒)

理事 山崎浩子(S 12卒)・松崎滯子(S 13卒)・宮内利雄(S 16卒)・若狭泰子(S 16卒)・中村隆英(S 17卒)・豊間根繁子(S 25卒)・桜井忠敬(S 26卒)・木村親光(S 30卒)・大野正恒(S 39卒)・佐藤武(S 41卒)・井上幸子(S 42卒)・中尾利民(S 42卒)・矢崎則子(S 45卒)・岩城英規(S 48卒)・小林真智郎(S 48卒)・三戸美子(S 49卒)

監事 小林昌信(S 46卒)・飯田るみ(S 46卒)

平成14年度 収支決算報告 (平14年4月1日~平15年3月31日)

収 入		支 出	
13年度より繰越	3,179,153	会費振込手数料	72,350
会費入金(14年分)	1,566,254	会報関係	1,915,593
(15年分)	389,000	(印刷費・4号分)	(658,942)
預金利息	34	(発送費・〃)	(431,420)
14年度卒業生入会金	33,000	(印刷費・5号分)	(405,245)
		(発送費・〃)	(419,986)
		集會費	6,404
		通信費	4,600
		その他経費	40,090
		次期へ繰越	3,128,404
計	5,167,441	計	5,167,441
諸 勘 定 残 高		郵便貯金(総合)	2,620,598
平15年3月31日現在		郵便貯金(振込)	411,200
		郵便貯金	96,606
		現 合 計	3,128,404

投稿のお願い

大井第一小は、長い歴史に支えられ、良き伝統が脈々と流れ、後輩達に受け継がれています。しかし、時代背景や世相の違いにより、思い出も異なるものをお持ちでしょう。「文字」にして残しておきたい思い出等がありましたら、投稿をお待ちしています。

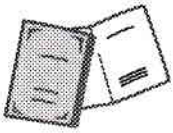
10月30日までに、郵便、Eメールで、森か松本宛にお送り下さい。

会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会報等の印刷代、通信費、事務費、母校に関わる慶弔費等の諸費用がかかります。平成15年の会費納入者は八〇〇名で約七〇〇〇名に第五号会報を送ることができました。これからも安定した同窓会活動を続けていくために、会費納入に皆様のご理解とご賛同を心よりお願い申し上げます。

一口 一〇〇〇円

同封の振込用紙をご利用頂き、五月末までにお振り込み下さい。



名簿の資料提供にご協力を!!

名簿は外部に洩れることのないよう名簿委員会で厳重に管理し、会報を発送しております。会報を通じ、より大きく同窓の輪を拡げ、更に、正確で充実した資料づくりを目指して、今回、住所の把握できないクラスの一覧をのせました。情報をご存知の方、又、会員個人の住所変更の方は、事務局までお知らせください。

現在登録者9名以下のクラス

(S10～S39年卒)

- 昭和10年 松 梅
- 15年 竹
- 22年 男女組
- 27年 梅
- 29年 松 竹 梅 雪
- 31年 竹 月
- 32年 松 梅 月 雪
- 33年 竹 梅
- 36年 松 竹 梅 雪 花 星
- 37年 松 竹 梅 月 花
- 38年 松 竹 月 花
- 39年 松 竹

昭和9年以前の方はお問い合わせ下さい。

同期会・クラス会の幹事さんへ

ご連絡いただければ、同窓会(名簿

委員会)で把握している住所の資料をシールにて提供します。(事務局まで)

物故者

- 平成一五年
- 安田 隆次先生
- 松本 京子先生
- 海老根英夫元校長先生
- 平成一六年二月
- 鈴木 万造先生

謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

第六号には多くのなつかしい先生方と同窓生の貴重な原稿を頂きました。本当にありがとうございます。卒業年代の異なる編集委員一同も、原稿を深い感動をもって読ませていただきました。同窓生の皆様もきっと同じような感想を持たれることと想像いたします。

第五号に引き続き会費振込用の通信欄に皆様からのお便りを頂きました。紙面の都合上全員の文をのせる事ができませんでしたことを、おわびいたします。

(編集委員一同)

同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛にお願いいたします。

森 秀 雄

〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井一―五三―九

TEL 〇三―三七七三―〇五〇六

Eメール:hide@mori-shoukai.co.jp

松本 徳太郎

〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区南品川五―一三―一

TEL 〇三―三四七―〇二八六

Eメール:mats745@cts.ne.jp

〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井六―一―三二

品川区立大井第一小学校

同窓会事務局

TEL 〇三―三七七―一五二四〇

FAX 〇三―三七七―一五三四八

http://www1.cts.ne.jp/oichi/

編集委員

昭和13年卒 松崎 澄子

昭和34年卒 森 秀雄

昭和35年卒 東山 周子(兼村)

昭和35年卒 上野 良子

昭和35年卒 松本徳太郎

昭和42年卒 井上 幸子(山崎)

昭和49年卒 三戸 美子(山口)